

彩の歳時記

平成二十九年 十一月

足元の**落葉**に冬の気配を感じる十一月。心に浮かぶのは仏蘭西の詩人
ヴェルレーヌ【1844～1896】の詩集『海潮音』所収の『**落葉**』。

上田敏【1874～1916】の名訳で人口に膾炙。ミレーの『**落穂ひろい**』
シャンソン『**枯葉**』など晩冬の仏蘭西の風景が目に浮かびます。

現在、晩冬の街は電飾に彩られ、その淋しさを感ずることもなくなりましたが
古人が感じたであろう「**寂寥感**」は詩や散文に昇華し、今も私達の心を潤して
くれます。紅葉が美しい季節、古都などを訪ねて古人の心に想いを重ねてみるのも。



十一月の暦

霜月 しもつき 霜降月の略 しもふりつき

一日 十三夜 旧暦・九月十三日の月・粟名月・後の月。十五夜が中国伝来で
あるのに対し、こちらは日本独自の行事。



二日 白秋忌

詩人・歌人、北原白秋【1886～1942】の忌日。生誕地福岡県柳川市の



旧家が記念館。早稲田英文科で早くから詩才を發揮し二十四歳で詩集
「**邪宗門**」「**思ひ出**」を刊行。新しい象徴詩の手法で詩の世界に衝撃を
与えた。姦通罪、生家の破産、二度の離婚と波乱の人生の中で、今なお歌い継がれ
る名曲「**からたちの花**」「**城ヶ島の雨**」「**ゆりかご**」などを多く残している。

三日 文化の日 明治節(明治天皇誕生日)を記念して、昭和二十三年に制定。

皇居で文化勲章授与式が行われる。今年の功労者にコシノジュンコ氏等。

六日 一の酉 酉の市は、十一月の酉の日に各地の鶯神社、酉の寺(浅草は長國寺)で
開運招福・商売繁盛を願う祭。江戸時代から、正月を迎える最初の祭とされた。

七日 立冬【二十四節気】

冬立つや背中合せの宮と寺 子規



十五日 七五三

昔は、男女共三歳で**髪置**といつて髪をのばし、男子は五歳で**袴着**、女子は
七歳で**帯解き**といつて付紐のない着物を着る祝儀が行われた。江戸時代に始まった神事であり、
旧暦の数え年で行うのが正式。



十七日 将棋の日 八代将軍徳川吉宗がこの日を「お城将棋の日」と定め、御前対局を行わせたという
史実に基づき、日本将棋連盟が1975年(昭和50年)に制定した。若手の活躍が

マスコミを賑わして話題になり、人気を呼んでいる。



十八日 二の酉 小説「**たけくらべ**」の舞台「**鳳神社**」は東京一番の人出で賑わう。

二十二日 小雪【二十四節気】

北国から雪の便りが届く頃。

二十三日 勤労感謝の日 元は新嘗祭(にいなめさい) 天皇が新穀を天神地祇に供え自ずから食し感謝する。



一葉忌

近代女性小説家の嚆矢、樋口一葉【1872～1896】の忌日。東京内幸町に生誕地

の記念碑。文京区菊坂、吉原、竜泉寺等、転居しつつ、女性の悲しみを格調高く詩情豊かな文体で綴
った「**たけくらべ**」は森鷗外や幸田露伴が絶賛。「**にごりえ**」「**十三夜**」他
女性で初めて、**紙幣の肖像**に採用。

三十日 三の酉 「三の酉」のある年は火事が多いとされる言い伝えがある。

十一月の歌

王将 1961年 詞 西条八十 曲 船村徹【1932～2017】

150万枚のヒット。歌詞のモデルは、棋士・阪田三吉【1871～1946】。

1962年に三國連太郎主演で映画化。西条【1892～1970】の歌詞「**吹けば**

飛ぶような」は、昔、使用していた駒がダンボール製であったことから、

浮かんたという。坂田は幼少時の貧しさから、文字を知らなかったので素行
のエピソードには事欠かなかったが「**三、吉、馬**」の字だけは書けたという。

将棋連盟が販売の扇子は「**馬**」が人気商品。現在は藤井聡太の「**大志**」。

吹けば飛ぶような
将棋の駒に
賭けた命を笑わば笑え
生まれ浪速の八百八橋
月も知ってる俺らの意気地

二番 略

明日は東京へ出てゆくからは
何がなんでも勝たねばならぬ
空に灯がつく通天閣に
俺の闘志がまた燃える

王将

秋の日の
平オロンの
ためいきの
身にしみて
ひたぶるに
うら悲し。
鐘のおとに
胸ふたぎ
色かへて
涙ぐむ
過ぎし日の
おもひでや。
げにわれは
うらぶれて
こゝかしこ
さだめなく
とび散らふ
落葉かな。